



ヤスハラケミカル 環境・社会報告書

2018

自然と暮らしを科学でつなぐ。

ヤスハラケミカル株式会社

CONTENTS

- 1 CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- 2 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- 3 会社紹介
- 5 TOP MESSAGE
- 7 経営分野
 - 中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 9 **特集 1**
事務部門業務の標準化・効率化
- 11 **特集 2**
新居浜工場における生産効率向上の取り組み
- 13 環境・安全分野
 - 環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
 - 【目標達成状況】**
2017年度の具体的な目標と実績 /
コラム「自家燃料ボイラーによる省エネ（福山工場）」
- 15 **【事業活動における環境配慮への取り組み】**
エネルギー使用量 / CO₂排出量 /
大気汚染物質の排出量 / 水質汚濁物質の排出量 /
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
 - 【安全衛生への取り組み】**
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /
安全衛生表彰 / 安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 17 社会分野
 - 【お客様への取り組み】**
品質管理
 - 【株主・投資家の皆様への取り組み】**
株主総会 / IR活動 / 株主還元
 - 【従業員への取り組み】**
仕事と家庭の両立支援 / 健康管理
 - 【地域社会への取り組み】**
スポーツ支援 / 地域防災への参加 / 交通安全啓発活動 /
清掃活動

会社概要

- 商 号 / ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
- 本 社 / 〒726-8632
広島県府中市高木町1080番地
- 創 業 / 1947年(昭和22年)4月
- 設 立 / 1959年(昭和34年)2月24日
- 決 算 月 / 3月
- 資 本 金 / 17億8,956万円
- 主 な 製 品 / ■テルペン樹脂事業
(テルペン系樹脂)
■化成事業
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
■ホットメルト接着剤事業
(ホットメルト接着剤)
■ラミネートフィルム事業
(光沢ラミネートフィルム)
- 従 業 員 数 / 243名(2018年3月31日現在)
- 証 券 コー ド / 4957

「環境・社会報告書2018」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

編集方針

- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間
2017年4月～2018年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2019年6月発行予定です。
- 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 社長室
TEL (0847) 45-3531 (ダイヤルイン)
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、
産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、
産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊
かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・
接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」
精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持
続可能な暮らしの実現を目指してまいります。



ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

松脂や松のチップなどから得られるテレピン油と、オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルを原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、松の木から採取される「テレピン油」やオレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

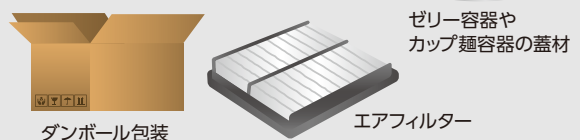
テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



ホットメルト接着剤

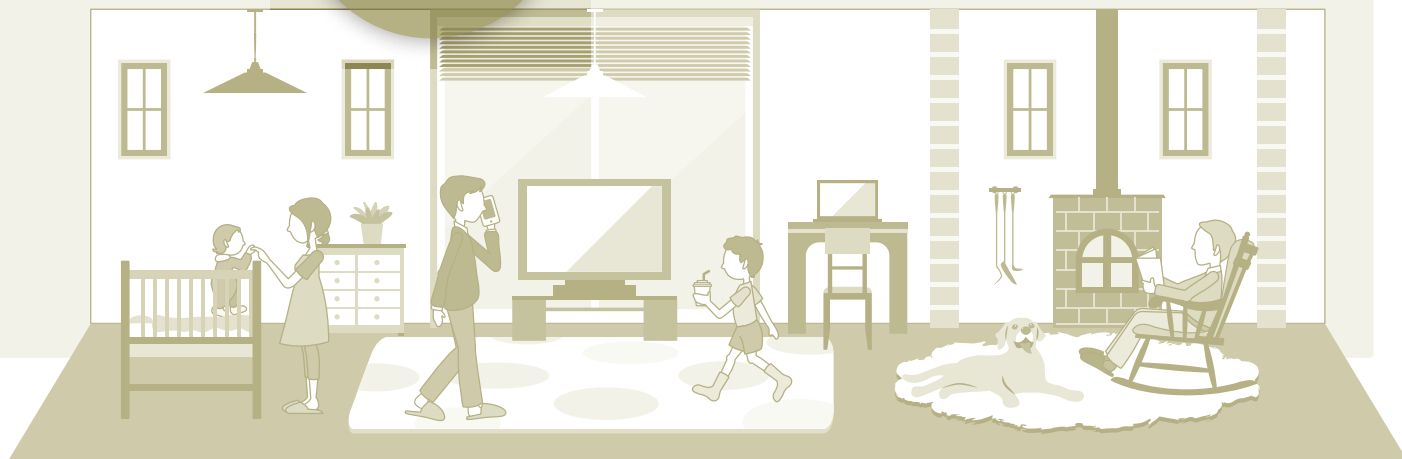
テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押出し加工用樹脂を製品化しています。





国内・海外の
お客様へ

当社の作り出す製品は、
世界各地の人々の暮らしに
役立っています。

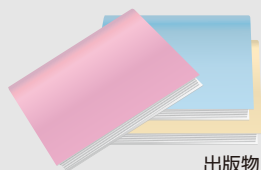


ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し出し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



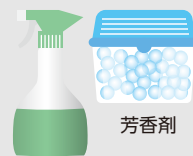
ショッピングバッグ



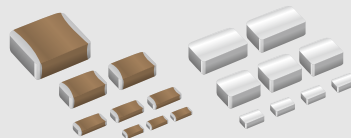
出版物

化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



洗浄剤

知のレベルアップにより現場力を高め、 さらに強い組織をつくります。

見えない部分に強みがある企業は
必ず生き残ります。

ビジネスではそれを見極める目が大切です。

この1年を振り返ると、国内も海外も「景気は悪くない」状態にあります。

この景気状況は、今年から来年にかけても続くでしょうが、来年導入される消費税率引き上げによる影響から需要がそがれ、オリンピック後、景気は後退局面に入る可能性もあります。だからこそ何が伸びていて、なぜ伸びているのかを注意深く分析することが大切です。

例えば今、台湾、韓国、日本で半導体の生産が伸びていますが、その伸びを支えているのはパソコンやスマホといった従来型の需要だけではなく、冷蔵庫などの白物家電における半導体需要の増加です。これらの製品では5年前に比べて半導体の使われる比率が大きく増えています。また半導体の需要で言えば、将来の需要増加を見越して、中国は自国での半導体生産体制を整えようとしており、そのため日本から半導体の製造機器輸出が増えています。

これらの需要は従来型ではないため表面的には見えていませんが、注視しておくことは重要です。経済的に厳しい局面を迎えた時に、見えない部分に強みを持つ企業は残ります。当社としては、そうした企業や需要に対応できる体制を、今から整えておく必要があります。

生産現場での改善活動の徹底により、
生産効率向上と技術継承に取り組んでいます。

日本では昨今、各分野で人手不足が表面化していますが、水面下ではかなり前からわかっていました。ヤスハラケミカル

では、限られた人数でも安定的に高品質な製品を供給するため、10年前から生産設備の統廃合を進めるとともに、生産効率の向上を目指してきました。

それでも働く人の年齢は毎年上がっていくため、知識や技能を、次世代につなげていくことも考えておかなければいけません。そこで近年は、現場の作業や工程をもう一度見直し、生産効率を高めていく改善活動に重点的に取り組んでいます。^(※1)

毎日同じ業務を続けていると、それを繰り返すことだけに集中してしまう危険性があります。業務改善への取り組みは、この作業は何のためにやっているのかを再確認したり、もっと良い方法はないかと視点を広げるための手段でもあります。当たり前だと思っていたことも、現場で注意深く見直すことで、新たな発見もあるのではないかとという発想から、業務改善への取り組みをエンドレスで続けています。

ISO27001認証取得プロジェクトを活用して、
事務部門全体の標準化と効率化を進めています。

生産効率の向上や技術継承は、生産現場である工場はもちろん、事務部門でも必要との考え方から、このたびISO27001認証取得に取り組みました。^(※2)

本来ISO27001は「情報セキュリティマネジメントシステム」に関する国際規格ですが、これを取得するには業務の標準化と効率化が欠かせないため、事務部門の生産性向上の手段として認証取得を利用したのです。取得にあたり、業務内容をスピーディーに改革していくには、社内だけで進めるより、外部からの客観的な評価や提案があるほうが実効性が高いとの判断から、全事務部門からのスタッフとともに専門のコンサルタントを交えたプロジェクトチームを結成して進めました。

(※1) 詳細はP.11 特集②「新居浜工場における生産効率向上の取り組み」をご参照ください。(※2) 詳細はP.9 特集①「事務部門業務の標準化・効率化」をご参照ください。

こうした取り組みは、現場の中に潜む改善のヒントを表面化させる機会になります。毎日当たり前だと思ってやってきたことが、ほかの人の目で見ると別のやり方が見えたり、気づいていただけと言えなかったことが、他の人とコミュニケーションをとることで表面にあらわれたり、改善につながります。

そうした積み重ねこそが、現場力の強化といえます。

ボトムアップとトップダウンを 組み合わせることで組織力を強化します。

経営環境が厳しさを増す中、ヤスハラケミカルがこれからも世界で戦っていくには、社員一人ひとりの知のレベルアップを図り、現場力を強くしていくことが、なによりも大切だと考えています。

知のレベルアップには、より多くの本を読むことしかありません。本を読み知識の幅を広げると、様々な場面で問題点や不足していることなどに気づきやすくなります。そして、それらの疑問や課題を解決していくために考えるようになります。そうした行為が、本質を見極める目を磨くことになり、ボトムアップにつながります。会社は、社員が知のレベルアップを図れるように、業務の標準化や効率化を推進し、人材の適正配置を行います。

一方、トップダウンとして部門長などの上層部には、全体を俯瞰する力を高めることを求めています。部門長が現場全体を俯瞰した上で進むべき方向性を示し、それを全社員が共有することで、現場力はさらに強くなるはずです。

知のレベルアップを図りながら、現場力をより強くすることで、ヤスハラケミカルの組織力をさらに高めていきたいと考えています。

ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 禎二 Teiji Yasuhara



中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性
改善

人のチカラ



グローバル
展開

新規開拓



グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

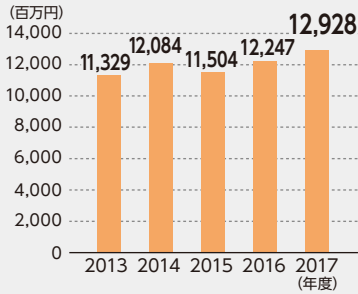
新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

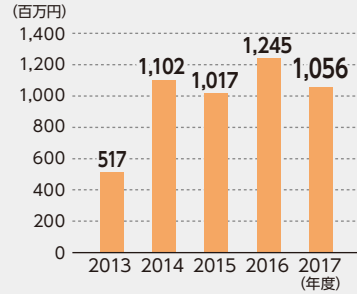


財務ハイライト

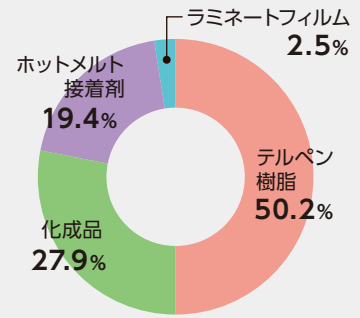
●売上高の推移



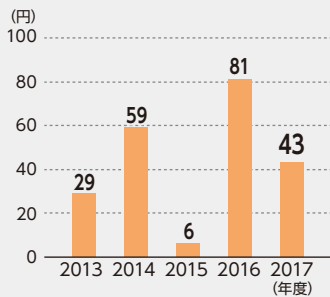
●経常利益の推移



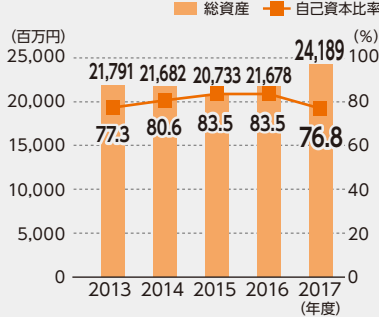
●部門別売上比率 (2017年度)



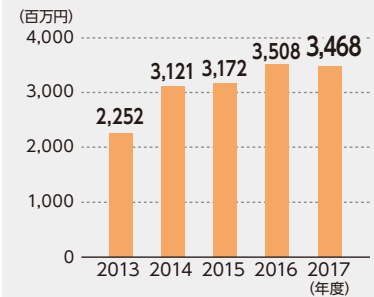
●1株当たり純利益



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高

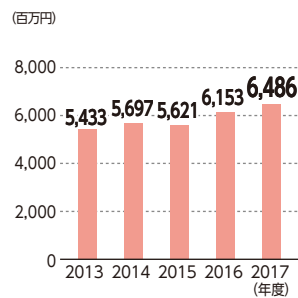


【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

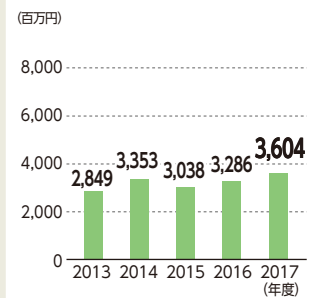
●売上高の推移



化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

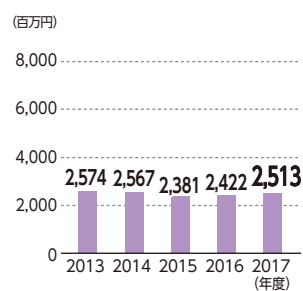
●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用押し出し樹脂の実用化を進めています。また、海外法規制対応品の開発・製品化を進めています。

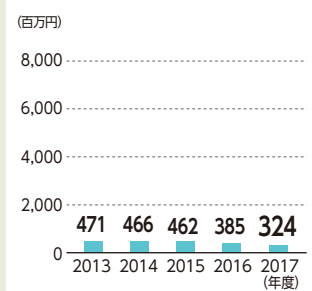
●売上高の推移



ラミネートフィルム

本事業の収益性向上のため、不織布に筋状コーティングした通気性のあるラミネート材の用途探索を行っています。また、機能性を付与した製品の開発を行っています。

●売上高の推移



業務の標準化・効率化を目的として ISO27001 認証を取得しました。

2018年3月、情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際規格ISO27001認証を取得しました。

認証取得にあたっては、総務部情報システム課が推進事務局となり、事務部門を横断したプロジェクトチームを結成。

認証取得プロジェクトの背景と効果、今後の展開についてご報告します。



事務局 プロジェクトリーダー
総務部情報システム課 課長
藤岡 裕士



事務局
総務部情報システム課
加藤 愛子

◎ ISO27001 認証取得を目指した背景

これまで事務部門では、各部署の仕事にあわせて、業務プロセスの管理も書類管理も個々の方式で行われていました。そうした体制のままでは、従業員間で仕事量に差が生じることもあれば、人事異動で新しい部署に就いた従業員がこれまでと異なる方式に慣れるのに時間がかかるといった問題が出てきます。

そこで、より柔軟な組織運営には、思い切って業務を標準化

し、それぞれの業務内容を見直すことで効率化を図る必要があると考え、ISO27001 認証取得を目指すことにしました。

ISO27001は本来「情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)」に関する国際規格ですが、この認証を取得するためには業務の標準化を進める必要があります。認証取得・維持のためのプロセスが、狙いとする業務の標準化・効率化を促し、最終的には組織力の強化につながると考えたのです。

業務の標準化

- 業務プロセスの可視化・ルール化
- 情報管理・伝達のルール化
- 内部監査・内部統制への対応

業務の効率化

- ムダ (時間、労力) の削減
- 業務効率の向上
- 不正や人事異動時のリスクへの対応

組織力アップ

- 付加価値の高い業務へのシフト
- 問題解決型の業務へのシフト
- 個人スキル向上機会の創出

◎ 認証取得に向けてプロジェクトチームを結成

2017年3月、認証取得に向けた検討を開始しました。1年という短期間での認証取得のためには、必要作業を全事務部門が認識・共有した上で、各部署で必要作業を確実に展開していくことが鍵となります。そこで、各部署の従業員を集め、部署を横断したプロジェクトチームを結成しました。また、コンサルタントを活用し、外部の視点を確保しました。

月に1回のペースでミーティングを開催し、推進事務局からは必要作業の連絡指示と、各部署における進捗状況の確認を行いました。チームで一致団結し、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 体系の整備を着実にいった結果、2018年3月に認証を取得できました。

【 認証取得までのスケジュール 】

	2017年										2018年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プロジェクトの立ち上げ	●												
ISMS体系の確認		■	■	■									
現状調査 (情報システム資源、セキュリティ環境の調査)			■	■	■	■	■	■	■				
ISMS体系の整備					■	■	■	■	■	■			
認証要求事項の確認、改善							■	■	■	■			
内部監査								■	■	■	■		
本審査													●
認証取得													●

◎ 認証取得のメリットとプロジェクトの効果

ISO27001 認証取得により、文書管理のセキュリティ統制が進み文書管理が徹底されることから、対外的には会社としての信頼性が向上するというメリットがあります。

プロジェクトに参加したメンバーにとっては、それぞれの部署を取りまとめる難しさを認識し試行錯誤することで組織人として成長する貴重な経験になったと思います。また、メンバー同士が、共通の課題解決に向けて、コミュニケーションを深めたことは、組織の活性化につながったと思います。

◎ 今後の展開

ISO27001 認証維持には、年に一度の外部審査が必要で、事前に内部監査を行う必要があります。そのため運用、見直し、フィードバックを繰り返すPDCAサイクルを構築し、継続的な改善が行われるようにしていきます。まずは管理職の理解を深め、PDCAサイクルの習慣化を図っていきます。

そして認証維持の取り組みの中で、部署を超えて気軽に話すことのできる風土を浸透させたいと考えています。また、従業員が効率化によって生じた時間を使ってスキルアップできるような仕掛けづくりをしていきます。

プロジェクトメンバーインタビュー

作業のマニュアル化を進め、より働きやすい環境を目指します。

認証取得はみんなに納得して協力してもらわないと前に進まないのですが、それには自部署の人に、取得の目的や作業の進め方などを、丁寧に説明することが重要になります。しかし部署内のだれもが初めてのことで、最初はどう説明すればよいのかわからず、とまどうこともありました。

その後、プロジェクトメンバー同士で相談しながら、月単位の作業内容を文書化して配布したり、プロセスが進むごとに部内の人に集まってもらって合意形成を図ったりなどして、徐々にスムーズに進められるようになりました。

2018年度は各部署で業務マニュアルづくりを行うことになっています。これができると、異動時の引き継ぎも容易になり、柔軟なローテーションが可能になります。また、業務の属人化が解消され、休暇時などお互いの仕事をフォローし合える体制ができますので、より働きやすい環境になると思います。



総務部人事課
保井 味左恵



経理部経理課
沖津 涼子

「安全」を追求し「ルール」を徹底することで、 高い品質と生産性を両立させていきます。

新居浜工場はヤスハラケミカルの主力と言える生産拠点で、この工場での生産性は全社的に大きなインパクトを持ちます。より生産効率を高めるための新居浜工場の運営方針と改善への取り組み事例についてご紹介します。



運営基本方針…安全衛生、品質、環境、生産性及び工場運営全般において、継続的な改善を推進し、成長し続ける工場の実現を目指す。

重点項目…………… 1. 手順・基準の見直しとその教育の徹底 2. 復唱・復命の徹底と、班長を中心とした管理体制の構築

「ルールを守る」ことを 新居浜工場の文化にしたいと考えています。

新居浜工場 工場長 田中 功二(左) 製造課 課長 河野 全秀(右)

— 新居浜工場の生産効率向上に関する 基本方針をお聞かせください。

田中 工場の使命は、操業を止めることなく、高い品質と生産性を両立させることにあります。そのために、まずは「安全」を追求しながら、「ルールを守る」ことを重点的に取り組んでいます。

具体的には、班長を中心とした体制を構築し、連絡や報告の基本となる「復唱・復命」を徹底するようにしています。かつては班長も、現場の中で班員と同じように実務を行っていたのですが、それでは班全体へ目が十分に行き渡らないこともあります。そこで数年前より班長は実務から離れて、班全体のマネジメント業務に集中できる体制を整えています。

その結果、2017年は一年間、無事故・無災害を達成することができました。

— 班長を中心とした「復唱・復命」はどのような取り組みですか？

河野 日常業務の中で何かトラブルが発生すると、迅速に対応することを優先し担当部署に直接連絡しがちですが、班長を経由せず連絡するとトラブルの根本原因を工場全体で把握することが難しくなります。そこで、連絡や報告はまず班長に行うことを周知しています。そうするとトラブルへの対応を含め班長がすべてを把握し、各種会議や朝のミーティング時に適切な指示・報告ができ、工場全体での共有化につながっています。

生産現場では、常に問題意識を持って仕事をするのが大切です。この設備はなぜこうなっているのかと考えることや、この設備を別の仕事にも使えないかなど気づくことで生産性は向上します。最近、自身の考えや気づきを自主的に発言したり、問題解決の報告ができる人が増えてきましたが、それも「復唱・復命」や情報交換を積極的に行っている成果だと思います。



— 生産性向上に役立った 改善の具体例を教えてください。

河野 これまで行った蒸気ボイラーの酸素濃度制御やオレンジオイル精留塔転用などは、高い省エネ効果を上げた事例です。大きな設備改修を伴わない日々の改善活動も柔軟に行えるよう、2017年から課単位の提案から、テーマ単位のチーム編成に切り替えたところ、業務改善活動がより活性化してきたと感じています。

具体的には、バケットコンベアの樹脂こぼれ改善*やコンテナ荷受け作業の安全性向上、高圧ガス配管・熱交換器の耐食金属化などのテーマでの取り組みがあります。どれも、安全性の向上や品質改善など、確かな成果を上げています。

*次頁の「業務改善事例」をご参照ください。

— さらなる生産性向上のための 今後の課題や方向性を教えてください。

田中 私は、生産性を高めるには、誰もが同じ作業を同じようにできることが大切だと考えています。そのため作業手順を見直し、作業基準書の再整備を進めているのですが、この見直しには、なるべく多くの人の参加を促しています。作業基準書の見直しに関わると、実際の作業における問題点に気づきやすくなり、それが新たな改善の機会になるという、いいスパイラルにつながるからです。

そして最終的には、「ルールを守る」ことを新居浜工場の文化にしたいと考えています。



業務改善事例

生産と保全のスタッフがアイデアを出し合い、 バケットコンベアの樹脂こぼれを改善しました。

ビーズ状樹脂搬送工程では、バケットコンベアで15mの高さまで運んで充填しますが、最上階の筐体水平部に樹脂ビーズがこぼれるため、定期的な高所清掃が必要で、担当者にとって大きな負担となっていました。また、調査の結果、樹脂こぼれは地上の筐体水平部でも起こることがわかり、生産スタッフと設備保全スタッフで業務改善グループを組み、改善に取り組み始めました。

地上水平部ではスクレーパーでバケットの内側に落とす工夫に加え、新たな空気の流れをつくり小さな樹脂まで内側に落とし、こぼれを削減しました。最も苦労したのは、最上階水平部でのこぼれの原因をつきとめることでした。当初は風の影響だと考えて様々な対策をしたのですが効果が上がらず、何度も最上階まで上って確認を行った結果、投入の際に小さな樹脂がバケットの裏側に付着することを発見しました。バケットの裏面をエアブローし樹脂の付着を防ぐ対策で、清掃作業を大幅に削減しました。地上でも最上階でも、改善に既存エア設備を活用することで、少ない改修コストで大きな効果が得られました。

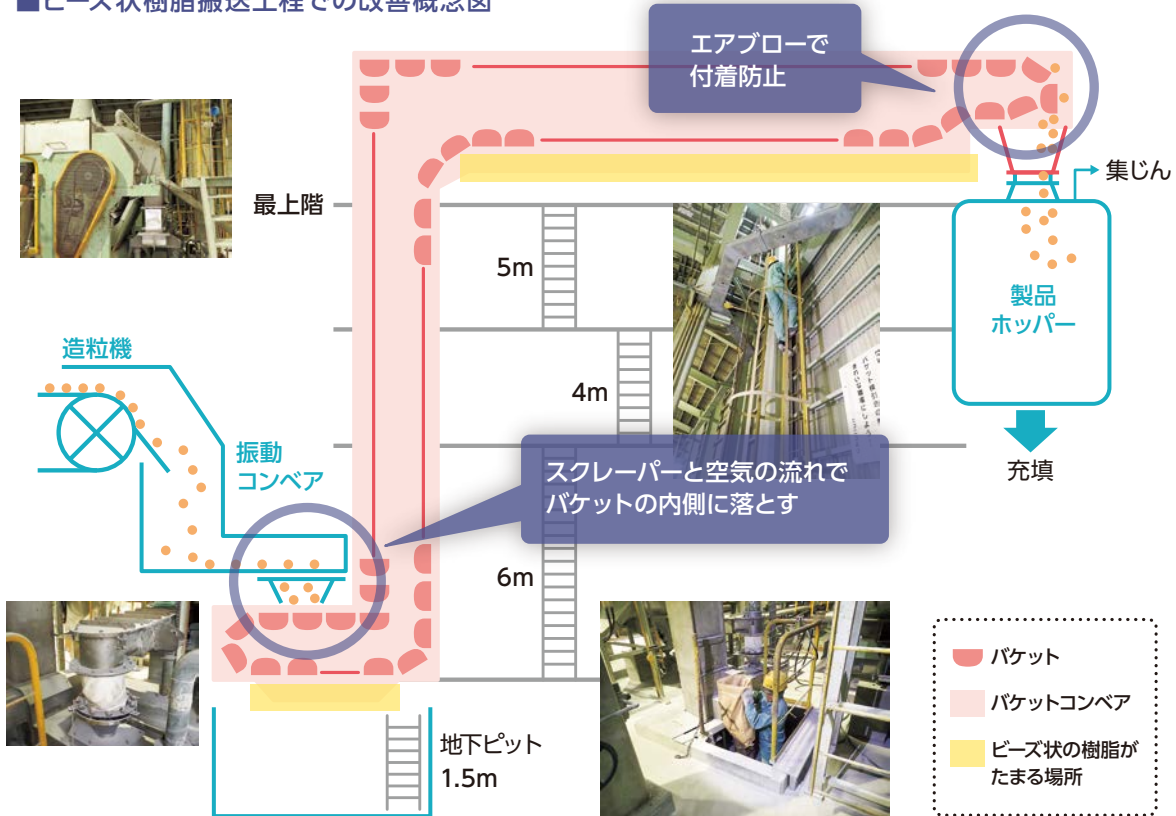
新居浜工場内には古い設備も多く、改善により大きな効果が期待できる箇所も多いと思います。テルペン樹脂生産設備内での手動作業を自動化するなど、今後も様々な提案を行っていきたいと考えています。

業務改善
活動グループ
「ゴールド」
メンバー
新居浜工場
製造課
小林 可南子



業務改善活動グループ「ゴールド」のメンバー

■ビーズ状樹脂搬送工程での改善概念図



樹脂こぼれによるロスを **40%削減!**

ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

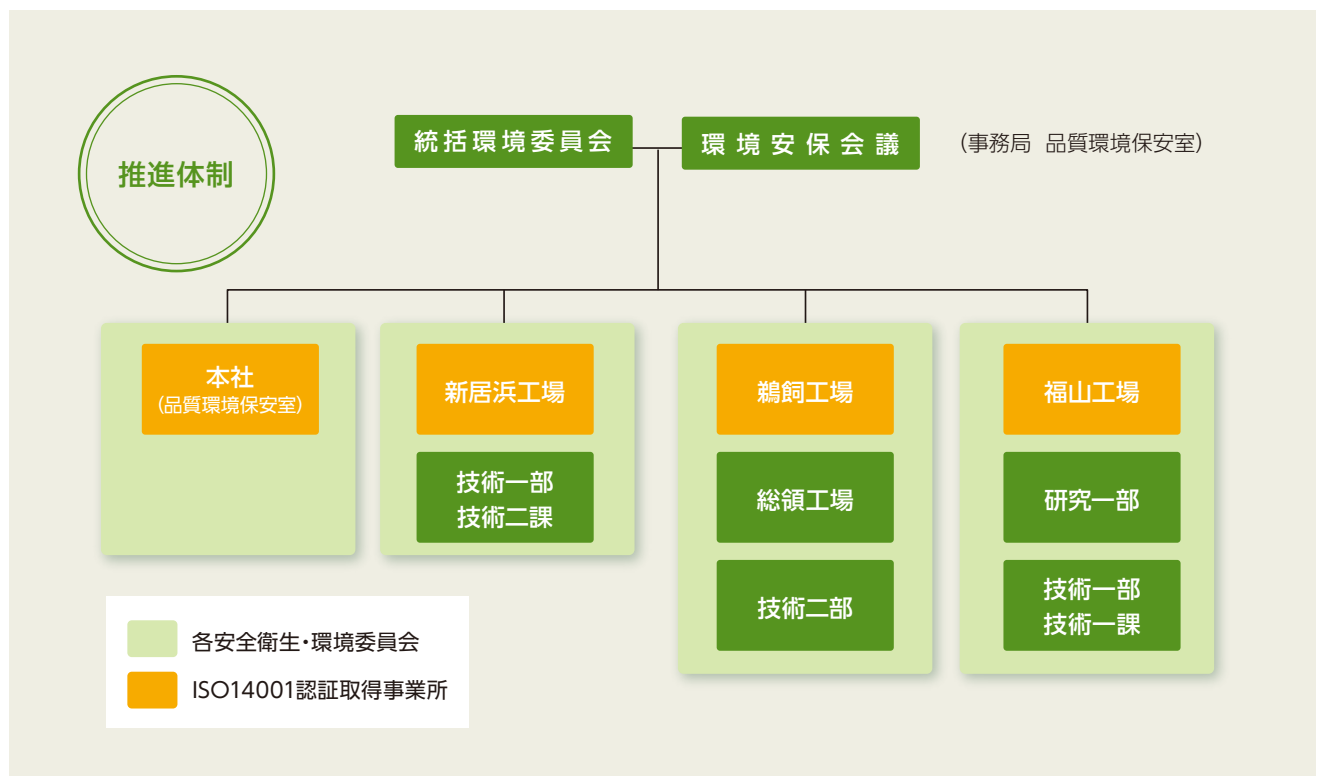
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



目標達成状況

2017年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
環境マネジメントシステム (EMS) の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証維持、2015年版への移行	◎	EMS認証取得3工場の認証更新
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比0.8%増加	×	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO ₂ 排出原単位前年度比1%削減	CO ₂ 排出原単位前年度比9%削減	◎	CO ₂ 排出原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位前年度比13%削減	○	産業廃棄物排出原単位削減
	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量前年度比18%削減	○	廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量前年度比5%削減	○	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業1件	×	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

◎目標を大幅に超えて達成 ○目標を達成 ×目標を達成できなかった



COLUMN

自家燃料ボイラーによる省エネ (福山工場)

福山工場では、省エネルギーを目的に自家燃料ボイラーを2016年に1台、2017年に2台、合計3台設置しました。これにより、生産プロセスから発生する副生油を蒸気ボイラーの燃料として有効活用できるようになりました。その結果、既存の重油ボイラーの稼働を抑えることができ、エネルギー原単位で約9%の減少が見込まれます。



2016年の1台目から設計・工事に携わっています。2017年には、副生油のさらなる有効活用のため、2台追加しました。追加するにあたり、1台目で生じた設計上の課題を改善するとともに、現場の声も反映しました。現場のみなさんが使いやすいよう、さらなる安定稼働に向けて努力していきます。

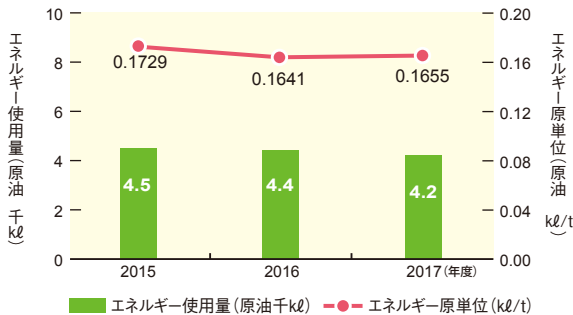


福山工場製造課 田邊 豊彰

事業活動における環境配慮への取り組み

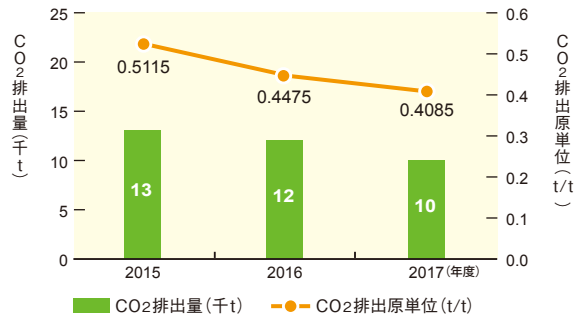
エネルギー使用量

2017年度は設備合理化や原料蒸留残渣のボイラー燃料活用等によりエネルギー使用量は減少しましたが、一部製品の生産量減少等によりエネルギー原単位は前年度比0.8%増加しました。引き続き省エネルギーに努めます。



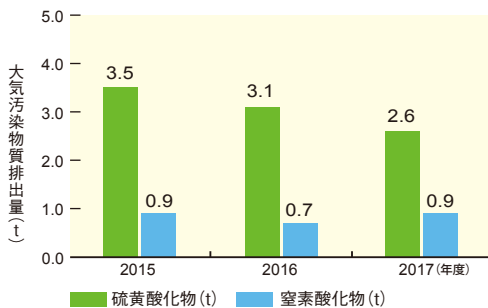
CO₂排出量

2017年度は原料蒸留残渣の活用等による燃料使用量削減の結果、CO₂排出原単位は前年度比9%減少しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。



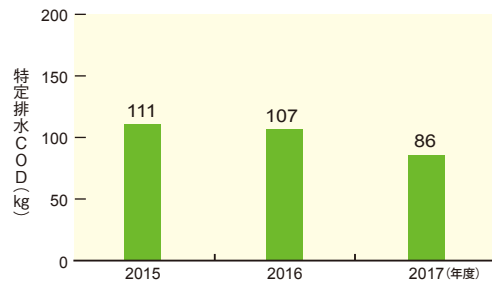
大気汚染物質の排出量

2017年度は2015年度から実施している低硫黄燃料への転換を継続し、硫黄酸化物排出量は減少傾向となっています。引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



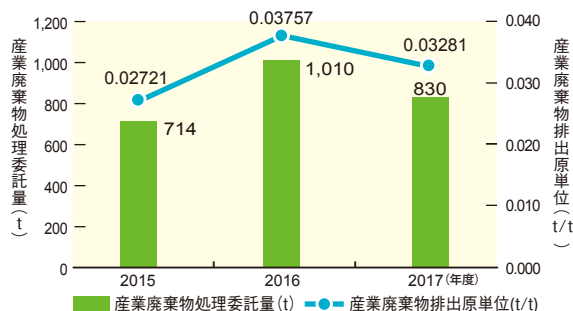
水質汚濁物質の排出量

2017年度は設備合理化をさらに進め、COD負荷量は前年度比20%減少しました。引き続き水質汚濁物質の排出削減に努めます。



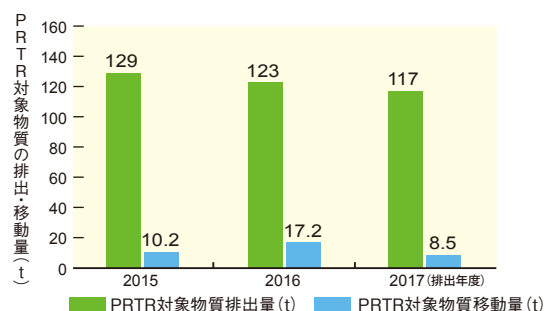
産業廃棄物処理委託量

2017年度は一部製品の生産量減少等の影響により産業廃棄物が減少し、産業廃棄物排出原単位は前年度比13%減少しました。引き続き産業廃棄物削減、有価物への転換等に努めます。



PRTR対象物質の排出・移動量

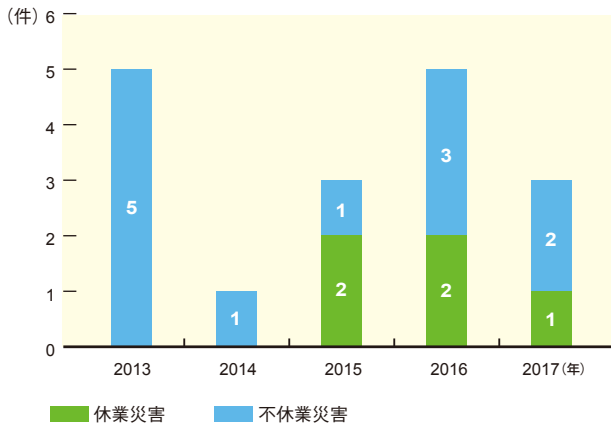
2017年度は一部製品の生産量減少等の影響により、PRTR対象物質排出量は前年度比5%減少しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。



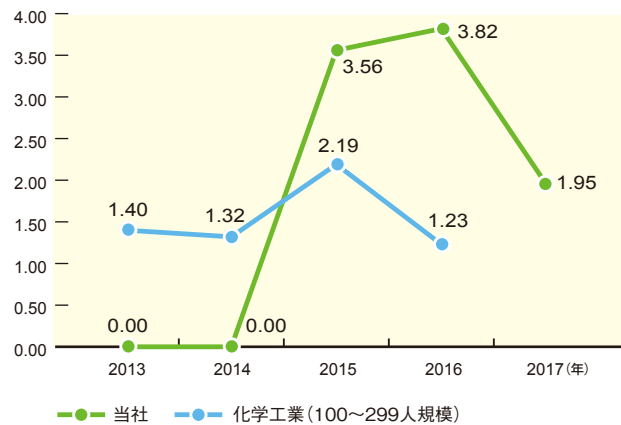
安全衛生への取り組み

ヤスハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

労働災害発生件数の推移



休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表す。
 ※出典：厚生労働省「平成28年労働災害動向調査(統計表)一般産業第2表」(平成29年10月3日公表)

安全衛生表彰

永年にわたり安全衛生活動と災害防止活動に努めたことが評価され、次のとおり工場や個人が関係団体から表彰されました。

表彰日	表彰対象	表彰内容
2017年5月19日	福山工場 門田 敏則	福山・笠岡地区 特別防災区域協議会 個人表彰
2017年5月25日	新居浜工場 京野 英昭	日本ボイラ協会愛媛支部長表彰 優良ボイラー技士 表彰
2017年7月7日	福山工場	広島労働局長表彰 奨励賞
2017年11月17日	新居浜工場 倉上 剛憲	日本ボイラ協会 優良ボイラー技士 表彰

安全衛生・環境に関する資格の保有者数

当社では、安全衛生・環境に関わる資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	保有者数(名)
	2017年度
公害防止管理者	12
エネルギー管理士	18
衛生管理者	21
特別管理産業廃棄物管理責任者	10
ボイラー技士・整備士	44
危険物取扱者	180
消防設備士	24
高圧ガス製造保安責任者	52

※延べ人数



広島労働局長表彰 奨励賞を受賞して

2017年7月、安全衛生活動が活発に行われていることが認められ、福山工場として広島労働局長より奨励賞を受賞しました。

働く人の安全を確保した、快適な職場環境が評価され、大変名誉なことと思います。これは福山工場が掲げている「安全・安心に働くことができる工場」という点からの日頃の取り組みが評価されたものです。今後も安全衛生水準を向上させる活動を積極的に推進していきます。



福山工場 工場長 藤岡 辰樹

お客様への取り組み

品質管理

品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

生産本部本部長 栗本 倫行

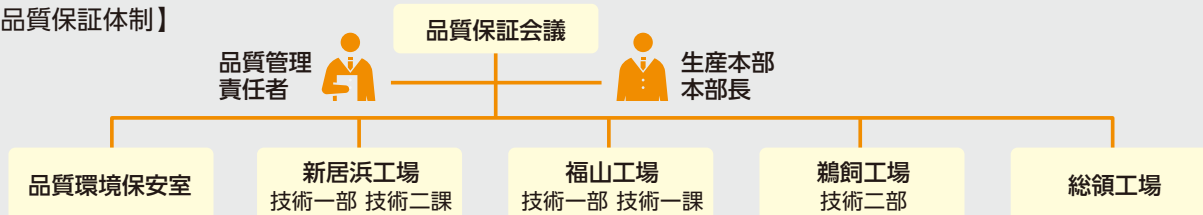
ISO 9001
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、 鶴飼工場、総領工場
登録番号	JCQA-0749
認証機関	日本化学キューエイ株式会社

品質マネジメントシステムISO 9001を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。ISO 9001は新居浜工場、福山工場、鶴飼工場、総領工場を統合した範囲で取得しており、2018年3月にISO 9001:2015規格への移行審査を受けました。

品質保証活動を全社で推進するため、各工場で品質保証会議を定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。

【品質保証体制】



株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

当社は、株主総会を株主の皆様との重要なコミュニケーションの場と考えており、より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、総会集中日を避けて開催日を設定するとともに、株主総会招集通知の早期発送などを行っています。2017年6月15日に開催した第59期定時株主総会には、約50名の株主の皆様にご参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、決算内容や業績予測について社長より説明を行い、株主の皆様からのご質問に回答させていただきました。今後もこうした直接対話の場を継続的に設けます。



IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。ホームページ内の「IR情報」における迅速な情報発信に加え、日々のお問い合わせへの対応等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実に努めます。



株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。

従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

ワークライフバランスの実現に向けて、育児休業制度、介護休業制度、育児短時間勤務制度などの支援制度の充実を図っており、多くの従業員が活用しています。



制度	概要	2015年度	2016年度	2017年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで (一定の場合は、最長2歳まで延長可能)	5名	3名	2名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00～16:00(または16:30)に短縮可能	10名	11名	15名

》》 健康管理

当社は、従業員のメンタルヘルス対策、健康管理を積極的に推進しています。

希望者を対象に産業保健スタッフによる健康面談を実施しているほか、2017年はメンタルヘルスに関する研修を実施しました。メンタル不調の一次予防として開催したセルフケア研修には、従業員の約9割が参加し、自身のストレスへの対応について理解を深めました。また、管理職を対象としたラインケア研修を開催し、部下の変化にいち早く気づき、相談対応、職場環境の改善などを行う「ラインによるケア」の重要性を周知しました。

産業医による衛生講話も毎年開催しており、2017年は「いますぐ禁煙」をテーマとした喫煙の健康リスクに関する講話を、本社事務所、鶴飼工場、総領工場に勤務する従業員が聴講しました。

地域社会への取り組み

》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガールズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。2017年は9月に同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

》》 地域防災への参加

新春恒例行事である2018年福山消防出初式に、当社からは、甲種普通化学消防車により5名が出動しました。当社消防隊は、危険物屋外タンク火災を想定した消火訓練に参加しました。



》》 交通安全啓発活動

交通安全週間に合わせ、関係機関・団体と共同で街頭啓発活動を行っています。地域の交通量の多い交差点等でチラシや啓発グッズをドライバーに手渡しし、安全運転を呼びかけています。



》》 清掃活動

地域社会の一員として、本社事務所、各工場周辺の清掃を定期的に行っています。



<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。